

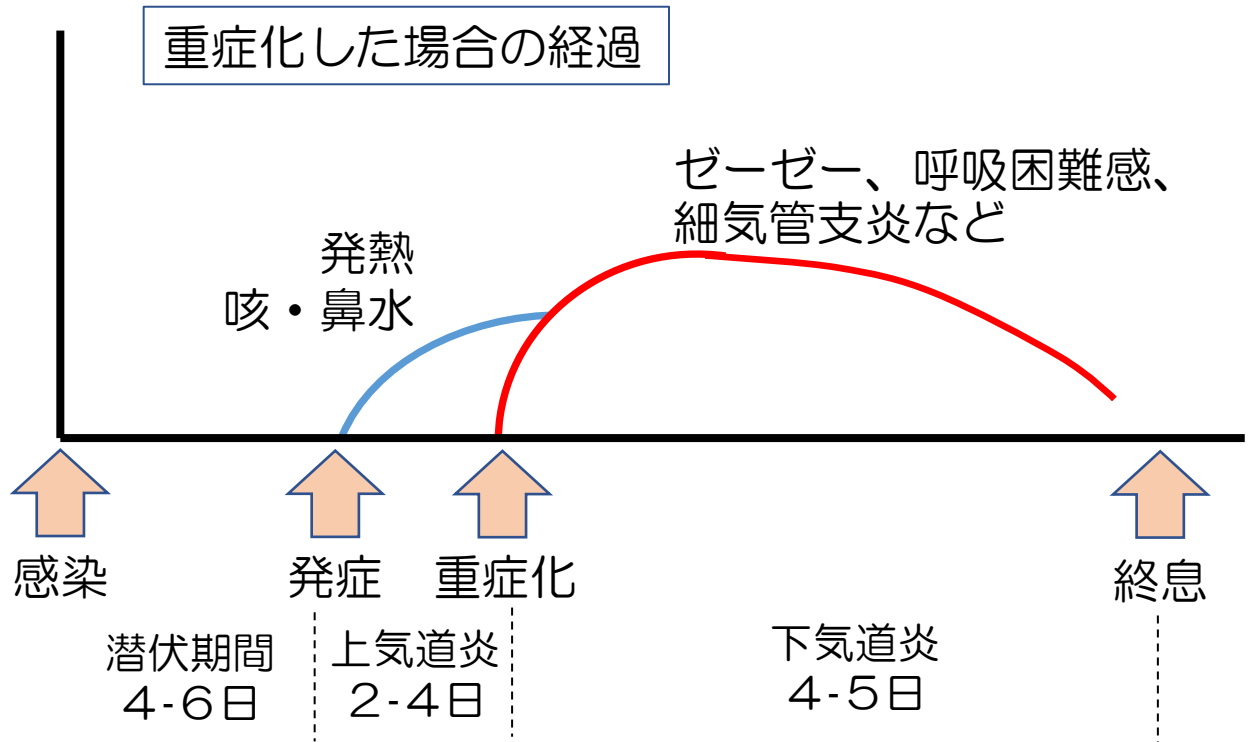
RSウイルス

ありふれた風邪ウイルスだが
乳児では重症化も。

RSウイルスとは？

- RSウイルスの感染による呼吸器の感染症です。
- RSウイルスは日本を含め世界中に分布しています。何度も感染と発病を繰り返しますが、**生後1歳までに半数以上が、2歳までにほぼ100%の児が感染する**とされています。
- どこにでもいる風邪のウイルスで大人でも何回も感染します。

症状の経過



初感染乳幼児の約7割は、鼻汁などの上気道炎症状のみで数日のうちに軽快します。

しかし下気道炎症状（ゼイゼイや咳き込み）を呈するようになり、重症化することがあります。

乳幼児では無呼吸発作やまれに脳症を起こすこともあります。

重症化しやすい人とは？

- 早産児
- 生後24か月以下で心臓や肺に基礎疾患がある小児
- 神経、筋疾患やあるいは免疫不全の基礎疾患を有する児
- 生後3か月以内の乳児
- ダウン症児

以上の子どもたちは重症化しやすいため注意が必要となります。

自宅で注意すること

- 経口摂取ができて、睡眠が取れていれば基本的には心配ありません。
- しかし、以下の症状があるときは注意してください。

- 「ヒュー、ヒュー」「ゼー、ゼー」と音がする喘鳴（ぜんめい）がある。
- 顔色や唇の色が悪い
- 胸がペコペコとへこむような呼吸をする
- 呼吸が速く、呼吸の回数が増えている
- 食事、水分が取れない
- ぐったりしている
- 夜間咳き込んで入眠できていない

治療は対症療法のみ

- RSウイルス感染に効果のある薬はありません。
- 去痰薬や解熱薬、加湿、吸入、排痰しやすい体位をするようにいします。
- など幼稚園などへの登園目安は「呼吸器症状が消失し、全身状態が良いこと」となります。

予防には手洗い、アルコール消毒を。

- 重症化リスクの高い小児に対して抗RSウイルスモノクローナル抗体：シナジス）を投与することがあります。
- 対象は在胎36週未満の早産児、慢性肺疾患、先天性心疾患、免疫不全、ダウン症児などです。
- RSウイルスのウイルス排泄は感染後7～21日続くと言われてしています。
- そのため接触感染対策としては、子どもたちが日常的に触れるおもちゃ、手すりなどはこまめにアルコールや塩素系の消毒剤等で消毒し、流水・石鹸による手洗いか又はアルコール製剤による手指衛生を行いましょう。

今回のまとめ

- RSウイルスは2歳までに100%が罹るといわれており、どこにでもいる代表的は風邪ウイルスです。
- 7割が数日間の咳、鼻汁で軽快します。
- ときにゼイゼイの発症や経口摂取不良となり重症化します。
- 治療は対症療法のみ
- 予防には手洗い、消毒が重要です。
- 登園は呼吸器症状が消失し、全身状態が良くなってから。